

# 視察を終えて

平成28年10月22日

北海道教育大学 椎葉麻美子

# 目次

- ▶ 自己紹介（視察・意見交換会への参加理由）
- ▶ 「六ヶ所村 再処理工場他」  
「むつ市 リサイクル燃料備蓄センター」の視察で印象に残ったこと
- ▶ 意見交換会で分かった立地地域の方々の思い
- ▶ 会場の皆さんにお伝えしたいこと

# 自己紹介・参加理由

## ▶ 大学に入学以前

エネルギーについて自分のこととして深く考えることなく、知識もなし。

## ▶ 大学に入学後

原子力に触れる機会を得て、昨年は大間原子力発電所などを見学した。

原子力反対の活動・裁判のニュースを頻繁に目にするようになり、原子力について悪いイメージをもつ部分があった。

→イメージにとらわれず、原子力に関する知識、現状をきちんと知りたい！

今回は核燃料サイクル施設を生で見ることができ、原子力関連施設立地地域の方々のお話を直に聞くことが出来る貴重な機会ということで参加した。

# 施設を視察して 六ヶ所村 再処理工場他

- ▶ 原子力発電にともなって発生する使用済燃料のうちの95～96%が再処理によって再利用可能となる  
→リサイクルかつ、高レベル放射性廃棄物の体積を減らす
- ▶ 国による厳しい安全審査
- ▶ 平和利用に徹しているか、 I A E A は24時間監視
- ▶ 様々な種類の会社の制服を着た多くの人たち、女性が働いている姿
- ▶ 社員の地元採用割合が高く、青森出身者が多い

## むつ市 リサイクル燃料備蓄センター

- ▶ 海外では建屋はつくらず、キャスクをそのまま保存しているところもある
- ▶ 貯蔵建屋内や周辺の放射線量を測定、常に監視している

### 施設に対する所感

100%の安全ということはない。何か起きる可能性、様々なケースを考え、備えて対応していくことで、リスクをゼロに近づけていく

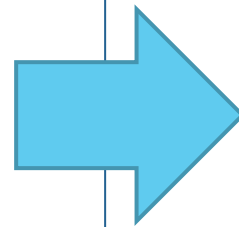
両施設とも自分の想像以上に安全管理が徹底されていた

# 意見交換会で分かった立地地域の方々の思い

- ▶ 以前の六ヶ所村では多くの人々が出稼ぎ  
出稼ぎの改善・村の経済発展を願い、強い覚悟で誘致決定
- ▶ むつ市には大学がないため、外に出て行った若者たちが戻ってくるまにしたいという思い、雇用の場や財源確保のためにも誘致決定

## 不安

農業をやっていけなくなるのでは？  
魚が売れなくなるのでは？  
放射性物質が飛んでしまうのでは？



強い反対

デマが広がる、不安が広がる  
子をもつ親も不安でいっぱい

事業者

・・・ 説明会の開催や全戸訪問を行い、  
心配や疑問に対してひとつずつ丁寧に対応

対話

住民

・・・ 何度も何度も説明会に出向き、自ら勉強していった

今でも勉強会に参加したり、未来世代のための活動をし続けている

お互いが多大な苦勞と努力をして信頼関係が築かれ、  
住民の受け入れ体制が出来た。  
現在は良い関係性を保ち共存している。

# サイクル施設の誘致の結果

- ▶ 高度医療の受診が可能になり、教育の充実にもつながった。
- ▶ 出稼ぎはほとんどいない。  
地元企業との協力も広がっている。
- ▶ もちろん反対の方もいるが、感謝している人が多い
- ▶ 地域の活性化へつなげている



▶ 問題もまだたくさん...

\* 「立地地域に対して国からの交付金や税収がほしくて原子力を受け入れた」という偏見

\* 農業者からすれば、危険な土地の農作物という風評も存在

▶ 立地地域の方々は...

国の政策に協力しているという誇りと責任を持っていることを理解してもらいたいし、その意識を共有したいと考えている

様々な葛藤があるなかで、地域と融合し発展させ、  
未来に繋げていこうとしている強い思いを感じた

# 伝えたいこと

- ▶ 核燃料サイクルの問題は、電気を利用して生きている私たち全員が考え向き合っていくべきこと
- ▶ 偏見や風評被害をなくすためには、正しい知識・意識の共有が必要  
特に、これからの世代を担っていく私たち学生、若い世代が継続的に  
関心をもつ → 事実に基づく正確な情報を得る → 未来に向け議論、判断する
- ▶ 受身の姿勢で情報を得てわかったつもりになるのではなく、  
実際に見ること、聞くことから正確な情報を得て、  
実感が伴った理解をすることが重要
- ▶ 見学会などの機会があればもっと多くの人に参加してもらいたい